



学校だより



千葉市立
みつわ台北小学校
3月号
(R8年2月27日)

6年生を送る会を終えて

校長 池内 哲夫

教室の窓を開けると、心地よい風と共に校庭の花から甘い香りが届き、春の訪れを実感します。今年度もいよいよ最後の月を迎えました。子どもたちは現在の学年での学校生活を終え、次の学年へ進む準備をしています。

先日行われた6年生を送る会では、どの学年も心身ともに大きく成長した姿を見せてくれました。

6年生を送る会には様々な意味があります。卒業を間近に控えた6年生へ感謝や祝福の気持ちを伝えるのはもちろんですが、全ての子どもたちにとって、現在の学年での成長を確認し、次の学年への夢や希望をもつ場でもあります。送る会での発表を通して自信を深め、次年度への希望をもつのです。

1年生「6年生♡大すき♡」では、鍵盤ハーモニカ等を使い「きらきら星」を合奏したり、大きな声で「にじ」の合唱をしたりしました。2年生「大きな数♡大きな6年生」では、小学校の間に一番背が伸びた人の紹介や6年間の登校日数など具体的な数字を挙げ、6年生が積み重ねた日々を分かりやすく発表しました。3年生「新解釈6年とうげ」では国語「3年とうげ」を基に6年との思い出を時事ネタと絡め、歌やダンスで楽しく発表しました。4年生「英雄（ヒーロー）のせなか」では、6年のすてきなところを歌やダンスや劇を交えて発表しました。5年生「スーパー6年生に感謝!!」では、6年生への感謝の気持ちを、ゲームのキャラクターに扮して劇や合奏で発表しました。6年生「みつえもんとのび太の学校きおく物語」では、各行事の思い出や感謝を劇で表現したり、全員で合奏したりしました。どの学年も素晴らしい内容で、とても盛り上がりました。自分たちの力で見ている人を笑顔にできたことが自信と成長につながったと思います。

特に企画運営を行った5年生に大きな成長が見られました。会の成功のために練習を重ね、力を尽くしてきた5年生から「これからは自分たちが学校を引っ張っていきます」と力強い言葉が発せられました。今、6年生から5年生へ最高学年としてのバトンが引き継がれようとしています。

6年生が築いてきた「明るく伸び伸びとした校風」を5年生がどのように発展させていくのか。頼もしさが増した5年生の活躍に期待しています。